

よくある間違いと記入上の注意

- 様式誤り（去年の様式を使用）
- レイアウト崩れ
→ページ左上に記載されている「（研究目的・内容等の続き）」などについて消してしまっている場合がある
- 査読有無の記載漏れ
- ページ番号のずれ
- 図表番号のずれ
- 入学、卒業年度の矛盾
- 修士課程→博士前期課程（医学除く）
- 科研費の費目誤り
- 科研費の申請漏れ
（研究期間3年にも関わらず、研究費は1年分の申請しか行っていない場合、など）

次ページ以降、DCの様式を使用して記載しておりますが、基本的な内容についてはPDについても同様です。

DCチェック項目

令和7年度採用分 特別研究員－DC 申請書

第 版

(申請書情報)

審査区分	①申請資格	DC	受付番号	
	②書面審査区分			
	③小区分名			漢字等(7文字以内)により記入されているか。
	⑤専門分野			
⑥研究課題名				

化学式、数式等を含んでいないか。
DNAのようにアルファベット表記が普通なものは可。

〇〇大学

1. 申請者情報等

⑦氏名	(フリガナ) カタカナ	
⑧学歴 (学部・修士)	1. 年 月 2. 年 月	
⑨博士の状況	1. 入学年月：(西暦) 年 月 編・転・再入学 2. 編・転・再入学時の在学期間換算： 年 ヶ月 3. 大学院名： 4. 研究科名： 5. 専攻名： 6. 課程種別： 7. 休学期間合計： 年 ヶ月 8. (西暦) 2025年4月1日時点における博士在学期間累計(休学期間を除く) 年 ヶ月	
⑩研究・職歴等	1. 年 月 ~ 年 月 2.	
⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙：		

32文字以内。旧姓や通称名等の使用も可。

- ・現在修士課程に在学中の者は、入学年月日のみ入力し、修了年月日は入力しない。
- ・の後期課程入学時期と比較して、年月等に矛盾はないか。
- ・早期修了の場合の記入例
(例： 大学大学院修士課程修了(成績優秀につき早期修了))
- ・博士課程(後期)分を記入していないか。
(ここは修士または博士前期まで)
- ・修士・博士前期を記入する欄について、名古屋大学(医学系研究科を除く)「博士前期課程」それ以外の大学 不問
- ・別紙にも記載がある場合、内容が一致しているか。
- ・将来の日付が記入されている場合「見込」としているか。

具体的に記入されているか。
(「その他」等は不可。)

博士課程前期(修士課程)時の休学を含んでいないか。

1行目を省略せず、上から記入されているか。

有の場合、別紙および白紙があるが、 ~ に記入済みのことも含めて記載されているか。

DC1
 「7.課程種別」が「3年制」の場合 1年未満
 「7.課程種別」が「5年一貫制」の場合 2年以上3年未満
 「7.課程種別」が「医歯薬獣4年制」の場合 1年以上2年未満

DC2
 「7.課程種別」が「3年制」の場合 1年以上3年未満
 「7.課程種別」が「5年一貫制」の場合 3年以上5年未満
 「7.課程種別」が「医歯薬獣4年制」の場合 2年以上4年未満
 自動計算で入力されるが、申請資格と矛盾が無い念のため確認する。なお、8.休学期間合計が6ヶ月未満の場合は在学期間累計に含まれる。

⑪博士の特記事項の有無	(博士の特記事項)		<ul style="list-style-type: none"> 以下に該当する場合、事情が記載されているか。 DC1： 博士の状況「7. 課程種別」が「医歯薬獣4年制」もしくは「5年一貫制」の場合で 現在の研究指導者と 採用後の受入研究者が一致しない場合 DC2： 現在の研究指導者と 採用後の受入研究者が一致しない場合、 現在の研究指導者と 採用後の受入研究者が一致している場合、「以下の事項には該当しない」が選択されているか 「転入学、再入学、早期修了、長期履修学生等」を書く欄ではない 	
⑫現在の研究指導者	(フリガナ)氏名		職名	
		研究者番号		
	所属機関			
	部局			
⑬採用後の受入研究者	(フリガナ)氏名		職名	
		研究者番号		
	所属機関			
	部局			
⑭採用後の申請者所属研究科正式名				

入力されているか。
「99999999」の場合、「研究者番号を本当に持っていないかを確認する」ように記載してください

・必須項目。正しい情報が記載されているか。
正しい例：工学研究科
駄目な例：名古屋大学大学院工学研究科、工学研究科マテリアル理工学専攻
・「部局」で「その他」が選択されている場合、正式名称が記載されているか。
受入研究者の所属が研究所等であっても、本欄は申請者の所属研究科を記載。

特別研究員-DC申請者⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等別紙

申請書1ページ「⑧学歴、⑨博士の状況、⑩研究・職歴等」欄にて、必要事項を記載できなかった場合、その他特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合は、本ページ内に全て記載してください。記載する際には、既に入力済の部分も含め全て記載してください。

学歴、博士の状況、研究・職歴等の欄が不足し、別紙「有」を選択した場合のみこの様式が添付される。～のうち、欄が不足した項目についてのみ記載する。

別紙については、下部にページ数の記載は不要(申請書全体のページ数にも含めない)

- ・以前の様式(記入枠があるもの)を使用していないか。
- ・入力済の部分も含めて入力されているか。
- ・研究・職歴等を記載する場合、時系列順で西暦が併記されているか。

例: 1.2016年4月～2017年3月 会社研究所研究員
2.2017年4月～2020年3月 ××会社研究所研究員
3.2020年4月 大学大学院博士課程入学(研究科 専攻)

(このページには何も記載せず、空白のまま提出してください。)



職歴等別紙を追加している際、
このページが削除されていないか

2. 【研究計画】 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

(1) 研究の位置づけ

特別研究員として取り組む研究の位置づけについて、当該分野の状況や課題等の背景、並びに本研究計画の着想に至った経緯も含めて記入してください。

【チェック項目】

- ・ 以前の様式(記入枠があるもの)を使用していないか。
- ・ 本文が明らかに10ポイント未満の文字で作成されていないか。
- ・ 申請資格に合った様式を使用しているか。(3ページ上部の「DC」や「PD」で確認)
- ・ 日本語または英語以外の言語で作成していないか。
- ・ レイアウト崩れ、ページの追加・削除、様式中の斜体以外の指示書きが削除されていないか。
- ・ ページ数に乱れが無い、順番が狂っていないか。
- ・ 不自然なスペース・改行・文字化け・文字切れ等はないか
(明らかに記載していない、記載途中のものは指摘しない)
- ・ 項目番号が抜けていないか。(1, 2, 3, 5等)
- ・ 図の番号が飛んでいる、もしくは重複していないか。
- ・ 白黒印刷の申請書を用いて審査する必要があるため、白黒印刷にしたとき見づらそうな図はないか。

【研究計画】(続き) 適宜概念図を用いるなどして、わかりやすく記入してください。なお、各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

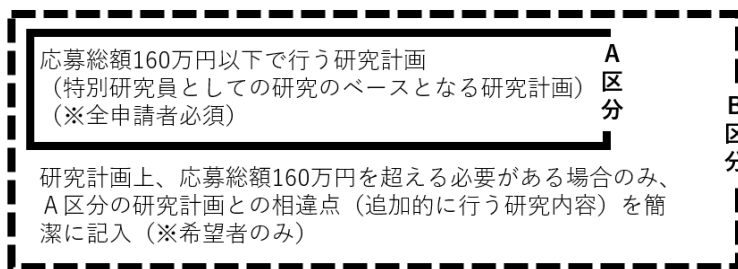
(2) 研究目的・内容等

- ① 特別研究員として取り組む研究計画における研究目的、研究方法、研究内容について記入してください。
 - ② どのような計画で、何を、どこまで明らかにしようとするのか、特別研究員奨励費の応募区分（下記(※)参照）に応じて、具体的に記入してください。
 - ③ 研究の特色・独創的な点（先行研究等との比較、本研究の完成時に予想されるインパクト、将来の見通し等）にも触れて記入してください。
 - ④ 研究計画が所属研究室としての研究活動の一部と位置づけられる場合は申請者が担当する部分を明らかにしてください。
 - ⑤ 研究計画の期間中に受入研究機関と異なる研究機関（外国の研究機関等を含む。）において研究に従事することも計画している場合は、具体的に記入してください。
- (※) 特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合の応募総額は（A区分）が240万円以下、（B区分）が240万円超450万円以下（DC1のみ）。2年の場合は（A区分）が160万円以下、（B区分）が160万円超300万円以下。1年の場合は（A区分）が80万円以下、（B区分）が80万円超150万円以下。（B区分については研究計画に必要な場合のみ記入）

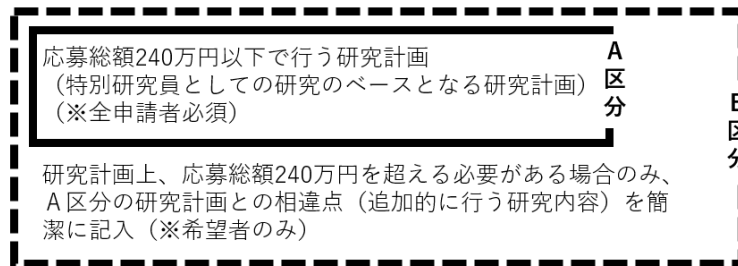
(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文及び図は申請書を作成する際には消去してください。

- ・(A区分)の研究計画は、必ず記入してください。その上で、(B区分)研究計画、応募総額が(A区分)の金額を超える必要がある場合のみ、(A区分)の研究計画との相違点(追加的に行う研究内容)を簡潔に記入してください。

●応募区分に応じた研究計画のイメージ図 DC2で特別研究員奨励費の研究期間が2年の場合



●応募区分に応じた研究計画のイメージ図 DC1で特別研究員奨励費の研究期間が3年の場合



- ・(A区分)と(B区分)のどちらを選択したかは、特別研究員の選考における審査及び特別研究員奨励費の審査に影響はありません。
- ・海外の研究者との交流、海外での研究など海外研さんに関する計画がある場合には、積極的に記入してください。

(研究目的・内容等の続き)

3. 人権の保護及び法令等の遵守への対応

本項目は1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本欄には、「2. 研究計画」を遂行するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究や安全保障貿易管理を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を記入してください。

例えば、個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査、行動調査（個人履歴・映像を含む）、国内外の文化遺産の調査等、提供を受けた試料の使用、侵襲性を伴う研究、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験、機微技術に関わる研究など、研究機関内外の情報委員会や倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となりますので手続の状況も具体的に記入してください。

なお、該当しない場合には、その旨記入してください。

空欄は不可。

何らかの記載があるか。

該当が無い場合、「該当無し」と記述しているか

4. 【研究遂行力の自己分析】 各事項の字数制限はありませんが、全体で2頁に収めてください。様式の変更・追加は不可。

本申請書記載の研究計画を含め、当該分野における(1)「研究に関する自身の強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、これまで携わった研究活動における経験などを踏まえ、具体的に記入してください。

(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・ 下記(1)及び(2)の記入にあたっては、例えば、研究における主体性、発想力、問題解決力、知識の幅・深さ、技量、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などの観点から、具体的に記入してください。また、観点を項目立てするなど、適宜工夫して記入してください。
- ・ なお、研究中断のために生じた研究への影響について、特筆すべき点がある場合には記入してください。

(1) 研究に関する自身の強み

(注) 本行を含め、以下の斜体で記した説明文は申請書を作成する際には消去してください。

- ・ 記述の根拠となるこれまでの研究活動の成果物(論文等)も適宜示しながら強みを記入してください。

成果物(論文等)を記入する場合は、それらを同定するに十分な情報を記入してください。

(例) 学術論文(査読の有無を明らかにしてください。査読のある場合、採録決定済のものに限ります。)

著者、題名、掲載誌名、巻号、pp 開始頁-最終頁、発行年を記載してください。

(例) 研究発表(口頭・ポスターの別、査読の有無を明らかにしてください。)

著者、題名、発表した学会名、論文等の番号、場所、月・年を記載してください。(発表予定のものは除く。ただし、発表申し込みが受理されたものは記載してもよい。)

・ 上記例に従って記載されているか。
【よくある不備】
* 査読の有無の記載漏れ
* 発表予定のものは、申込が受理されていることが言及されているか

(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素

(研究遂行力の自己分析の続き)

5.【目指す研究者像等】 各事項の字数制限はありませんが、全体で1頁に収めてください。様式の変更・追加は不可

日本学術振興会特別研究員制度は、我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資することを目的としています。この目的に鑑み、(1)「目指す研究者像」、(2)「目指す研究者像に向けて特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ」を記入してください。

(1) 目指す研究者像 ※目指す研究者像に向けて身に付けるべき資質も含め記入してください。

(2) 上記の「目指す研究者像」に向けて、特別研究員の採用期間中に行う研究活動の位置づけ

日本学術振興会特別研究員申請者に関する評価書

評価書作成者	氏名	
	所属機関名	
	部局名	
	職名	
申請者との関係		
<p>申請者の(1)「研究者としての強み」及び(2)「今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素」のそれぞれについて、具体的に入力してください。</p> <p>※特筆すべき事項（出産・育児等のライフイベントに伴う一時的な研究業績の減少により、配慮を要する場合を含む）がある場合には、記載してください。</p> <p>※入力にあたっては、アンコンシャス・バイアスをできるだけ排除するようにしてください。</p>		
<p>(1) 研究者としての強み</p> <p style="text-align: center; font-size: 48px; color: lightgray;">見本</p>		
<p>(2) 今後研究者として更なる発展のため必要と考えている要素</p>		

申請者の研究者としての将来性について

(特に優れた学業成績、受賞歴、飛び級入学、留学経験、特色ある学外活動など、申請者の将来性を判断する上で特に参考になると思われる事項があればそれに言及して記入してください。)

見本

(1) 応募中の研究費

研究者氏名				
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	2025年度の 研究経費 (期間全体の額)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて 本応募研究課題に応募する理由等 (左記の研究課題に応募するに当たっての所属組織・役職) (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	

見本

(2) 受入予定の研究費

特別研究員奨励費（特別研究員）

資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	2025年度の 研究経費 (期間全体の額)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて 本応募研究課題に応募する理由等 (左記の研究課題を受入れるに当たっての所属組織・役職) (科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	
			(千円)	

見本